

# まちづくり協議会で深めているつながりをまちづくり行動計画づくりに書き起こそう

まちづくり協議会設立によって、これまで行ってきた地区の活動も新しい体制で運営したり、新たな活動を始めた地区もあるようです。新たな顔ぶれ、新たな活動での話し合いは、地区の課題や理想、目標などが見えてくるチャンスです。今回は丘地区、富士駅北地区の防災部会での取り組みをご紹介します。



## 活動のなかで 地区の変化をキャッチ

自主防災会では、地区にお住まいの高齢者に「災害・緊急支援情報キット」の登録を呼びかけています。個別に声をかけると、「周囲の迷惑になりたくない」という登録を渋る声も聞かれる一方で、「(登録することで)地区の仲間になれた」と話す人もいたそうです。部会の方々はこのような地道な声かけが地区のつながり、コミュニティづくりにつながることを感じているようです。



「災害・緊急支援情報キット」

## 富士駅北地区

富士駅北地区では、防災委員会(部会)に消防団が加わり、連携が強まりました。行動計画の内容について話し合いを行いながら、富士第一小学校PTAからの「防災キャンプ」の提案についても協議し、初めての活動として、協力することにしました。

裏面から

7月9日に行われた最終の打ち合わせ会は、PTAと防災委員会の合同会議として行われ、当日の運営等を確認しました。地区内の10区の自主防災会から参加表明があったことを報告し、会場設営のほか、会場内の誘導係などを担当することになりました。



裏面に  
続く

## 丘地区

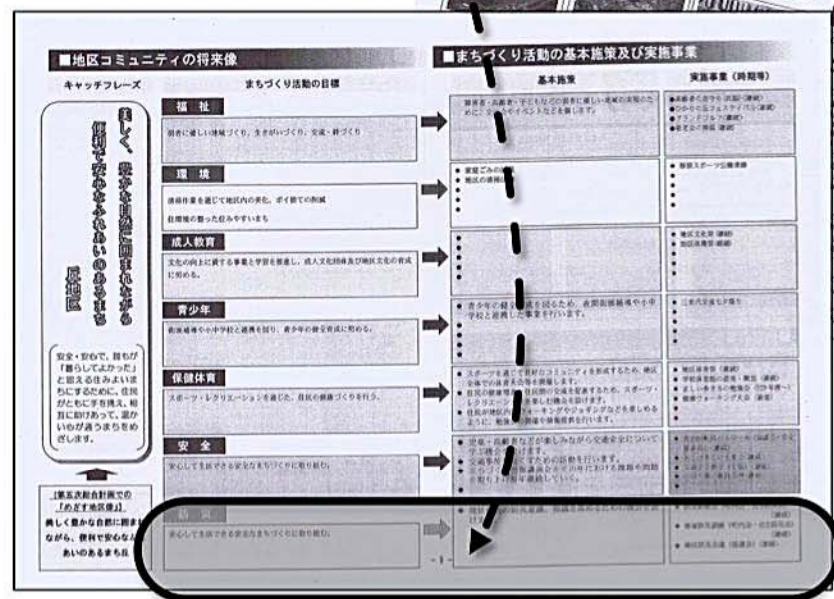
### 防災部会 ～避難所運営マニュアルをつくらう

丘地区まちづくり協議会では、防災部会ができたことをきっかけに、今年度内に避難所運営マニュアルをつくらうと、自主防災会が中心となって月1回会合を開いています。丘地区は2つの避難所が設定されており、11町内のうちの7町内の避難所になっている丘小学校から検討を始めました。これまで、HUG(避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム)体験などを行い、避難所運営の難しさを実感しました。8月20日(木)午後6時から行われた会議では、市防災危機管理課とともに、他地区のマニュアルを参考に話し合いました。実効性のある避難所運営マニュアルづくりへのアプローチ方法や、情報収集、現状把握などの積極的な提案もあり、ますます活動意欲が高まっています。

丘地区は、世帯数が増えており、高齢者施設も多くなっています。新しい住民が増えるとともに、家族構成が変わってきていて、避難の理由も「家より安全」から「みんなと一緒にだと安心」といった変化がみられるそうです。



丘地区まちづくり協議会会長の勝又美次さんは、「急がず、他地区などの情報を集め、みんなの気持ちを尊重して進めたい。」と話します。防災はまちづくりの要。行動計画づくりも活動のなかから大切にしていきたいことをじっくり検討してまとめたいと考えています。



地区まちづくり行動計画の内容を考えることは、普段の活動で大切にしていること、新しい活動を始めるために話し合ったことを部会のなかで互いに確認しあうことから始まります。それらを積み上げていくと、計画というカタチが見えてきます。せっかく話した大切なことを「文字にする」ための一工夫が計画づくりのコツですね。